講義名	物流管理論					授業形態	
担当教員	李　志明	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 ２時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	DIS260

主題と概要

我々は日常生活において様々なモノを消費している。そのモノの流れを物流と言うが、物流が止まると企業活動や日常生活が不可能となる。それだけ物流は重要である。
近年、企業経営においても物流管理が大きな課題となっており、物流管理が可能な人材の確保が重要であると認識している企業が多い。
講義を通して、必要な専門知識と企業の物流管理を理解する。
特に、物流管理論は、企業の課長レベル以上に必要な内容を多く議論する。

到達目標

(1)物流の６つの機能と、企業における物流の専門用語が理解できるようになる。
(2)流通における企業の物流管理の仕組みが理解できるようになる。
(3)物流管理における課題を理解し、これからの物流管理の意思決定に貢献することができるようになる。

提出課題

特にない。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題がないため、それに対するフィードバックはない。

評価の基準

定期試験100%
※授業貢献度によって加算点あり。

履修にあたっての注意・助言他

授業中の議論に積極的に参加してほしい。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.なし.				

その他

教員が制作したレジュメをキャンパスクロースにアップロードする。各自、プリントアウトして、関連内容について予習しておく。また、授業内容のすべてがレジュメに記載されているわけではないので、レジュメを持って、授業に必ず出席すること。

授業計画

以下のように、15回の授業を計画する。そして、「大学設置基準第21条2」により、各授業回における計4時間の予習・復習が必要である。（　　）の内容を参考に、各自、予習と復習を実施する。

1. 物流管理論の理解
（物流の概念、ロジスティクスとの相違点、宅配と物流の関係）

2. 私の生活を支える物流
（ショッピングと物流の関係、物流の機能）

3. 流通における物流の概念と６つの機能
（物流と流通の関係、物流と商流の相違点）

4. 企業における物流管理の位置づけ
（荷主の概念、物流専門事業者の役割）

5. 輸送機能の理解と輸送システム
（輸送の必要性、輸送機関の種類）

6. 配送の概念と配送システム
（JITのメリットとデメリット、ミルクランの概念）

7. 物流サービス管理
（サービスの概念、物流サービスの概念と評価方法）

8. 物流情報管理
（物流と情報の一致、認識技術、物流情報システムの構築方法）

9. 物流コスト管理
（物流コストの種類、物流ABCの算定過程）

10. 在庫管理
（受発注と在庫の関係、受発注システム）

11. 流通における商品の付加価値管理
（流通加工の機能、包装の目的）

12. スマート物流
（スマート物流の定義、物流の新技術）

13. 物流と環境管理
（環境にやさしい物流、物流の環境対策）

14. 国際物流管理
（国際化と国際物流、物流インフラの役割）

15. まとめと物流管理の再考察
（物流の重要性、企業と生活における物流の役割）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

物流は流通の一部であり、物流の基礎知識を身につけることで、流通に関する問題探索と課題提案に貢献できるようになる。また、物流の仕組みや役割を通して、流通の仕組みや役割を理解できるようになる。
小売業や日本経済において、モノの流れを管理する物流管理は欠かせない。物流管理の即戦略として会社で努めることができるので、社会で活躍することになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

各回の授業中に授業内容に関して議論する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
物流データの分析と物流政策立案の支援の経験があり、民間企業や政府の考え方と仕事のやり方などが伝え、より現実感のある講義を提供できる。

備考